

## 協議会ウェブサイトについて ～事務職員の相互支援を目指して～

新ひだか町立高静小学校  
岡田 郁子  
新ひだか町立静内中学校  
石原日登美

### 1 はじめに

日高管内事務職員協議会は管内を西部・中部・東部の3ブロックに分かれて計37名(再任用2名含)で研修を推進しています。管内研修部が設定した「管内統一研修テーマ」を中心に、それぞれのブロック独自の研修テーマも設定しとりくんでいます。各ブロック研修会は、年5～6回開催され、年一度の管内研究会でその研修成果を持ち寄り交流・協議しています。なお、管内統一テーマの設定に関しては、必要に応じて「研究推進委員会」を設置・諮問し(これまで6回設置)、その答申を受け共通認識にたつて研修を進めるようにしています。研修テーマによっては研修が長期に渡ることもありました。

日高支部も学校統廃合が進み、事務職員の数は減少し続けています。年齢的には40～50代が多く、新採用者もここ数年で4名しか採用されておりません。過去においては若い人の配置が多く、そのため事務職員個々の業務内容に差異が生じ、共通の協議ができていく状況がありました。その克服のために「誰でも・何処でも・同質の内容の業務」「仕事のしやすさ」を基本に据え研修を進めてきました。

これは、特定の人が先行的に研究・実践したものに他の人がついていくのではなく、皆で研修し力量の底上げを図りながら、学校事務に係わる情報や知識・経験を蓄積し交流していくというものです。

つまり、全員が同一歩調で助け合いながら進めていくという相互支援的な取り組みであるといえます。新たな情報基盤(パソコンやネットワーク等)を活用し、より発展・充実させていくための一つの手段として相互支援システムを目指してきました。日高管内事務職員協議会ウェブサイトの運営・活用もこの

相互支援システムの一環であり、情報の蓄積と共有化を図り、我々の職務に有益な活用方法ができるように研修してきました。

今回は実際にウェブサイトをご覧頂くことにより、運営や内容等について忌憚のない意見・批判を頂戴し今後の研修・実践の糧にしたいと考えておりますので、よろしくご検討ください。

### 2 これまでの研究の流れ

日高支部のウェブサイト(開設当初はホームページと表示)は、2004年12月より12年に渡り運営しています。

開設の発端は15年前に遡りますが、2001年度(平成13年度)の第4次研究推進委員会より提起された「第4次答申書(研修テーマ;これからの教育と学校事務あり方及びサブテーマ;ネットワーク化を見すえた学校事務の研修)」によります。この答申を受け設置された「事務ネットワーク委員会」による2年間の検討を経てウェブサイトが開設されました。

この委員会では「校内LANを活用した学校事務のあり方」「Web・MLによる学校事務相互支援の在り方」について調査研究が行われ、具体的に校内LAN、インターネット(ホームページ)、メーリングリスト等が検討されました。第4次答申書では事務職員の相互支援システムを構築するためにウェブサイトを利用することを構想としていました。事務局からの情報提供だけでなく、利用会員からの情報提供やブロック・町・会員間の情報提供による活動の活性化、全道・各支部との情報交換等の活動連携など双方向化と多極化を目指していました。

また、当初の「日高管内事務職員協議会ホームページ」を作成するにあたり会員より以下の要望を取り、反映しています。

- ①HPの運営方法・運用規則について
- ②HPの内容について
- ③HPにおけるセキュリティ・個人情報・著作権の問題について

事務ネットワーク委員会での検討の後、支部事務局の確認を受けて、2004年12月22日に試験運用が始まりました。その後、委員会（支部事務局）で内容の検証を行い、問題点の検討、修正を行いました。総会で報告した後、本格運用が開始となりました。

ウェブサイト作成に当たっては全道協議会にご協力いただき、全道の運営規則や運営組織等を参考にさせていただいています。

### 3 現状のウェブサイト

#### (1) 運営について

現在、ウェブサイトは各ブロックから1名ずつ、事務局から1名の計4名からなるメディア委員会が運営しています。年に2回程度会議を開きますが、多くはメールでの連絡で済ませています。各ブロックのメディア委員は年度始めに選考し、初めて委員になる人がいる場合は、ウェブサイト更新のための実務研修会を行っています。この際、事務局担当者が作成した手引に従って研修を行っています。手引には画像を多く使い、日常業務にパソコンを使っている事務職員であれば、誰でも更新できる内容となっています。

ブロックに関わるもの（ブロック研修計画、ブロック報、ブロック研記録等）の更新は各ブロックのメディア委員が行い、それ以外については、事務局担当者が更新しています。メディア委員各自のPCにソフトをインストールして、ウェブサイトの更新を行っています。

レンタルサーバーは協議会として契約し、年間使用料は協議会予算から支出しています。

#### (2) 作成について

2005年度に本格運用が始まりましたが、一部の担当者に任せきりとなっていました。2011年度に事務局担当者が替わったときに、予算面なども協議会で明確にするよう引き継がれました。それを受けて、協議会予算で市販のHP作成ソフト5組、必要とする参考図書を購入し、ウェブサイトを全面改定しました。それまでのものは、当初作成したものに追加を続けたため、トップページから検

索しにくいものになっていました。この改定では市販ソフトの機能を有効に使って、見出しから各ページを開けるようにしました。

#### (3) 内容について

「1 会長あいさつ」は年度始めに一度だけ更新しています。

「2 組織と活動」は協議会組織などに変更があったときに更新しています。

「3 研修内容」は2006年度からの各ブロック研修計画、管内研修計画を掲載しています。また、管内研修については研修推進のために、追加で資料を掲載している年度もあります。

「4 管内研究会」は年に一度開催している研究会の情報を掲載しています。研究会の内容や協議会の研修内容や活動等について、管内検討実アンケートを実施しています。アンケート結果は翌年の研修に役立てるために、会員のページに掲載しています。

「5 資料室」には以前は紙媒体で配付していた、日高支部作成の学校事務の手引を掲載するとともに、これまでの研修の成果である「日高管内標準文書分類表」や研修の経過が分かるように研究推進委員会の答申書等を掲載しています。

日高支部作成の学校事務の手引は「学校事務の手引」「日高学校事務の基本」「質疑応答集」で構成されています。「学校事務の手引」と「質疑応答集」は事務局で作成したもので、管内研修部（事務局、3ブロックの理事）が担当して、毎年改訂作業を行っています。ウェブサイトに掲載する前は、印刷したものを各校に配置し、変更となったページの加除を年に一度行って行っていました。「質疑応答集」については管内研究会等で教育局から回答をもらったことや、条例規則などの改正により、確認が必要ことを掲載しています。「日高学校事務の基本」は「新採用者の手引」（支部協議会作成）が基になっています。新採用者がほとんどいなくなってから、「日高学校事務 Basic（日高の学校事務の基本を理解するために）」と名称を変えて再編集しました。

(名称は2011年度に現在のものに変更)内容は協議会組織の説明、事務職員の職務について、学校事務に係わる資料となっており、ここ数年は管内の新採用者研修会の資料としても利用しています。

「6会員のページ」には個人情報が含まれる広報などを掲載しているため、パスワードを設定しています。ここには「①会報(管内、ブロック報)」、「②掲示板(へのリンク)」、「③事務に役立つファイル」、「④管内研アンケート結果」、「⑤共有情報」、「⑥ブロック研記録」を掲載しています。「②掲示板」は外部へリンクしているため、2重にパスワードを設定しています。その上で、個人が特定できるような投稿は行わない約束になっています。「③事務に役立つファイル」は会員が作成した、ワードやエクセルの様式等を掲載しています。「⑤共有情報」のページは管内研やブロック研で実践交流したものを、各校の実践に役立てようと設けました。現在は研修結果に限らず、その年度の研修資料を随時掲載し、ウェブサイトから会員が直接印刷できるようにしています。また、資料として過去の会報、ブロック報を掲載し、管内手引類については、データを各校で作成する文書等にそのまま利用できるよう、PDFファイルに変換していないものを掲載しています。

「7リンク集」には関係機関、旅費関連サイト等を掲載しています。

「8運用指針」は全道協議会サイトの個人情報運用ガイドラインを参考にして作成したもので、個人情報の取扱についての約束事を掲載しています。

「9サイトマップ」には各ページへのリンクを設定しています。

以上の他に「お問い合わせ」のページを設けています。ウェブサイトに直接メールアドレスを掲載することによる、迷惑メールを防ぐ目的で設けたページで、このページから連絡を受けることにしています。ただ、初期にはいくらか問い合わせがありました。現在は全く利用されていません。

「管理人からのお知らせ」はトップページ

には掲載していない、更新情報や会員への連絡を掲載しています。

ウェブサイトの内容については、会員から総会などで出された要望にはできるだけ応えるようにしています。たとえば、会員のページに掲載している各ブロックの研修記録は2015年度総会での会員から要望によって掲載が始まりました。

#### 4 成果と課題

ウェブサイト開設前は事務局が印刷、発送していた会報や、協議会作成の手引は、会員がインターネットに接続できる環境にあれば、いつでも入手することができるようになりました。

リンク集に掲載した旅費関連や条例のサイトは、会員の業務に有効に活用されています。

会員間の実務上の情報交換を目指して、会員のページからリンクする「掲示板」を設けたことにより、多少は情報交換できるようになりました。

「事務に役立つファイル」は、会員が作成した、ワードやエクセルの様式等を掲載していますが、出勤簿や休暇等処理簿の様式はよく利用されています。

管内研やブロック研で実践交流したものを各校の実践に役立てようと設けた「共有情報」のページに、現在はその年度の研修資料を随時掲載しているので、事前に研修資料に目を通すことができ、印刷して配付する手間がなくなりました。

ウェブサイトの更新は本来であればメディア委員で分担するべきですが、ウェブサイト作成の経験者がほとんどいないため、事務局で担当する項目が多くなっています。

若い会員も採用されるようになってきたので、ウェブサイトの内容やどう利用していくか、検討していく時期に来ていると押さえています。また、メディア委員会をもっと機能させる必要がありますが、経験者が少ないことからどのようにとりにくんでいくか、管内全体で検討する必要があります。

ウェブサイト利用環境としては、管内事務職員配置全校でインターネットが利用できることは確認しています。しかし、職員室では利用できないところ（視聴覚室等に限定される）、インターネット回線速度が遅い地域があるなど、インターネット環境の改善が必要な学校もあります。

「掲示板」の利用状況は、一部の会員に限られているのが現状です。実務上の疑問を投げかける、あるいは情報を提供してくれる会員は数名で、多くの会員は投稿しないで、閲覧するだけにとどまっています。参考になる投稿があった場合には、何らかの反応をしてほしいと、機会を捉えて事務局から働きかけていますが、なかなか改善されません。ただ、管内研究会で毎年実施しているアンケートの回答では、投稿しなくても閲覧しているという会員は結構いるので、これからのとりくみが重要になると考えています。

## 5 おわりに

教育の情報化＝ICT教育の推進が国の施策として急激に進み、自治体に違いはあるものの、電子黒板や書画カメラ、タブレットやWIFI環境の整備が進められ、教育のIT化に向けた環境整備は現場に押し寄せてきています。

そして、とりまく状況の急激な変化によって事務職員の業務内容にも影響を及ぼしつつあります。すでに、日高の学校でも校内LANやインターネットの接続環境は整備されており、教育委員会からメールで公文書が届くのが当たり前になっています。日高では公文書の收受、保管を事務職員の中心的業務として押さえてきたため、メールアドレスの取扱について、管内研究会等で論議にはなっています。ただ、事務職員がどこまで係わるかは、個々の学校事情や事務職員の考えに任せられているのが現状です。今後、紙媒体での文書管理から、電子データでの情報管理に移行する状況になれば、事務職員の業務内容について、検討する必要がある出てくるかもしれません。

学校現場の情報化は確実に進んでいますが、日高としては、単に効率性や利便性にのみ目を奪われることなく、新たな情報基盤（PC、ネットワーク環境）の上においても「誰でも・何処でも同質の内容」の学校事務と「仕事のしやすさ」を目指して組織的に研修を進めています。そして、協議会ウェブサイトを通して、管内の協議会会員相互の情報収集や情報交換の活性化を図ろうと研修を行っています。

協議会ウェブサイトは十分活用されているのか問われれば、まだまだ不十分だと答えざるを得ませんが、今後若い会員が増えることを考えると、ネットワークを利用した業務改善、情報交換は進むのではないかと押さえています。これからの学校事務を見据えて、研修会等での論議を基にした共通認識に踏まえ、学校現場での実践を進めていきたいと考えます。